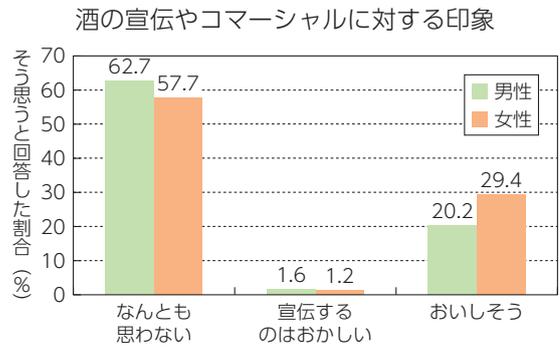
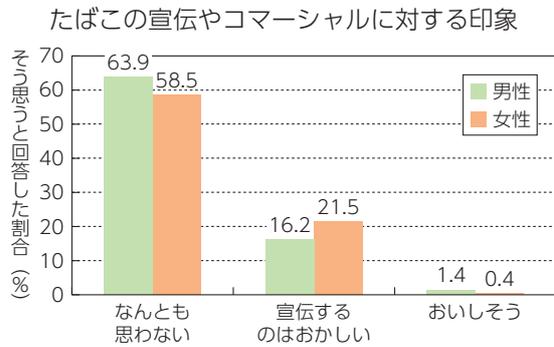


13

情報に惑わされないで！

09及び10で示したように、近年、将来「たばこを吸う」や「酒を飲む」と思う高校3年生がともに減っていましたが、喫煙と飲酒に対する考え方は大きく異なっていました。

同じ調査（文部科学省薬物等に対する意識等調査、平成24年実施）では、たばこや酒の宣伝やコマーシャルに対する印象についても質問しています。高校3年生の結果を見てみましょう。



調査（平成24年度実施）では、たばこや酒の宣伝やコマーシャルの印象として他にも例示があり、「そう思う」ものにも○を付けてよいこととしていました。

たばこや酒の宣伝やコマーシャルに対して男女ともに「なんとも思わない」と回答した割合が約60%で最も高く、寛容であることが分かります。

しかし、たばこの宣伝やコマーシャルに対して「宣伝するのはおかしい」と批判的に思う割合は16~22%程度です。一方、酒については、男女ともに2%未満と極めて低くなっています。

また、**宣伝やコマーシャルからたばこを「おいしそう」と思う割合は男女ともに2%未満ですが、酒については、男子で20.2%、女子で29.4%でした。**



喫煙や飲酒は、宣伝・広告によって助長されると考えられています。

09や10で示した将来の喫煙や飲酒に対する考え方と宣伝・広告に対する考え方に似通ったところがありませんか？



たばこや酒の宣伝やコマーシャルは、それらの製品がいかに魅力的かを訴えかけることを目的に制作されています。

その際、訴えかける対象を絞り込んでいきます。例えば、最近若い女性をターゲットとしたお酒の宣伝やコマーシャルが増えているような気がしませんか？

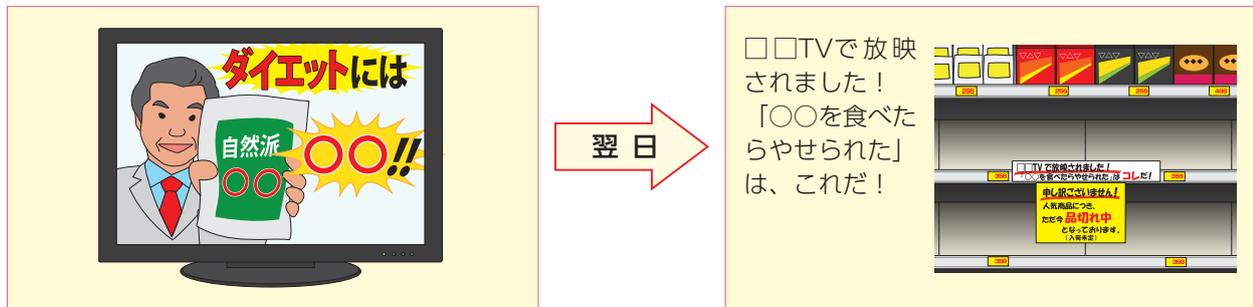
皆さんは、小学校や中学校で広告分析などを経験しているかもしれません。

宣伝やコマーシャルのメッセージは注意を引くために様々な工夫を凝らして作られたものであること忘れないでください。

現在、多くの高校生が携帯電話・スマートフォンをはじめとする情報端末を持ち、インターネット等を通じて様々な情報を入手できるようになっています。

宣伝やコマーシャルのような情報は、発信元とその目的が比較的分かりやすいかもしれませんが、近年、健康に関する情報もテレビの情報番組やバラエティー番組などに取り上げられていますが、その内容や取扱い方は様々です。

特に健康に関する情報は、時に専門性が高い場合があります。不適切な情報に惑わされないようにするためには、どうしたらよいのでしょうか？



考えてみよう！

誰がこの情報（メッセージ）を発信（作成）していますか。

情報の発信の際にどのような工夫がなされていますか。

情報発信者のターゲットにされていませんか？

発信された情報には、省略されている内容がありませんか。

なぜ、この情報が発信されたのでしょうか。

ポイント

〇〇大学、□□研究所などだけでは、本当の専門家を表すわけではありません。情報を提供することより利益を得る、スポンサー等がいませんか？

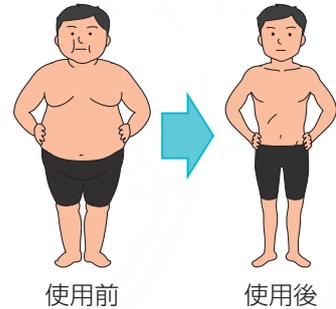
抽象的な表現や過剰な表現でごまかされていませんか？
その情報と関係のないテクニック（映像や音声）が使われていませんか？
極端な例をあたかも一般的な例として勘違いさせられていませんか？

男性や女性、受験時期の年齢層など特定の対象に過度の不安を与えるような情報ではありませんか？

健康被害が生じる可能性が省略されたり、小さく取り扱われたりしていませんか？
反対意見があることがわかりますか？

情報の発信は、利益を上げるためだけにされるわけではありません。個人または団体等の考えを広めたりするために発信されることもあります。

〇〇研究所
が新たに開
発した……



注意) 〇〇は、あなたにとって××が原因の一つになります。

注意) 〇〇は、あなたにとって××が原因の一つになります。

現在の科学では分からないことがまだまだたくさんあります。一方、分かっていることもたくさんあります。私たちは、不確かな情報に惑わされることなく、情報の取捨選択ができるようになる必要があります。

感染症は、かかった本人も辛いですが、周りの人につつしてしまう可能性もあることから、予防や治療が大切です。特に知っておきたい感染症を紹介します。

感染症とは？

- ・細菌やウイルスなどの病原体が、人と人、または動物や人との接触を通したり、環境を介したりして、人の体に入って増えることを「感染」といいます。こうした病原体に感染して起こる病気のことを「感染症」といいます。
- ・病原体の種類等により症状が現れるまでの時間が異なります。この期間を「潜伏期間」といいます。
- ・感染症には、感染力が強いものと弱いもの、病状が重いものと軽いものがありますが、感染力が強くなれば重症になりやすいウイルスなどが発生すると、その被害はとて大きくなってしまいます。そのため、皆で対策をとらないといけません。
- ・感染の拡大には、「感染源（病原体）」「感染経路」「人（宿主）」の三つがかかっています。このうちどれかをストップすることにより、感染症を予防することができます。



対策のポイント

感染源を絶つ

殺菌消毒



殺菌消毒の方法は病原体により様々です。

感染経路を絶つ

清潔・清掃・衛生管理など



皮膚・衣服の清潔保持、住居の清掃、水道の整備、衛生的な食料の流通・保管、冷蔵

抵抗力を高める



バランスのとれた食事、適度な運動、休養、睡眠、予防接種

※抵抗力とは…病原体などに打ち勝つための体力や免疫力のことです。免疫とは自分を病原体から守る仕組みです。例えば血液中の白血球の一種（リンパ球など）が侵入した病原体を攻撃するなどの動きをします。

感染経路

感染症の感染経路は、いろいろあります。病原体によってその経路が違ってきます。

○接触感染

病原体に直接触れたり、感染した人と接触したり、ドアのノブ、タオルなどを介して感染する場合のことを言います。（流行性角結膜炎など）

○飛沫感染

「飛沫」とはせきやくしゃみの「しぶき」のことです。病原体がせきやくしゃみなどにより飛び散って、それをすぐに隣の人が吸いこんで体の中に入ります。このように比較的近くにおいて（1m～2m程度）せきやくしゃみを浴びて感染するような経路を飛沫感染と言います。（インフルエンザ、風疹など）

○空気感染

空中に長く漂い、空気の流れに乗って移動した病原体を人が吸い込んで感染するようなものを空気感染と言います。患者と同室にいただけでも感染するような感染力が強い病原体も多く見られます。（麻疹《はしか》、水痘《みずぼうそう》、結核など）

その他に、病原体に汚染された食物、水などから感染したり、病原体をもった蚊、ハエ、ダニ、ネズミなどに刺されたり、接触したりかまれたりすることによって感染するものもあります。

感染症の今～感染症の克服に向けて～

人類の歴史は感染症との闘いの歴史でもあります。時には感染症の大流行で文明が滅びたこともありました。適切な予防法で感染を防ぐこと、感染を拡げないことが大切です。

最近話題の感染症

なぜ、「エボラ出血熱」「デング熱」のような聞き慣れない感染症が社会的な問題になっているのでしょうか？

国際交流の活発化や航空機による迅速かつ大量輸送の進展により、短時間のうちに病原体が世界に広がるようになりました。

エボラ出血熱

熱帯雨林の開発などによりこれまで知られていなかった感染症が拡がる可能性があります。これを**新興感染症**といいます。

エボラ出血熱は、致死率が極めて高いことから社会的な問題となっています。

デング熱

これまでに医学・医療の進歩により克服してきた感染症が、再び脅威となっていることもあります。これを**再興感染症**といいます。

デング熱は、蚊を媒介して感染します。蚊の生息が多い公園等での屋外活動に注意が必要であることから社会的な問題となっています。



エボラ出血熱のような致死率の高い感染症が世界中に拡がらないようするためには、発生した地域での封じ込めが大切です。そのためには、国際的な協力が欠かせません。

エボラ出血熱とデング熱では、感染力も感染後の症状も大きく異なります。新興感染症や再興感染症では、予防や治療方法がよく分かっていないこともあるので、誤った情報に惑わされることなく、適切な情報をもとに行動しましょう！



もっと詳しく調べてみよう！

厚生労働省 エボラ出血熱に関するQ & A

検索

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/ebola_qa.html

厚生労働省 デング熱に関するQ & A

検索

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever_qa.html

新型インフルエンザ

毎年流行する季節性インフルエンザと異なる新しいタイプのインフルエンザウイルスによる感染症です。

多くの人々が免疫をもっていないので、全国的かつ急速に拡がって、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるものです。

性感染症とは？

- ・性的な接触によってうつる感染症を性感染症といいます。性器や咽頭（のど）などの粘膜や周辺の皮膚に、血液・精液・分泌液などの体液が直接接触することによって感染が起こります。
- ・性感染症には、性器クラミジア感染症、淋菌感染症、尖圭コンジローマ、性器ヘルペス感染症、梅毒などがあります。
- ・性感染症の中には、不妊症の原因になるもの、妊娠中や出産のときに胎児にうつしてしまうもの、現在の治療では完全に治すことのできないものもあるので注意が必要です。

**多くの性感染症には自覚症状がありません。
性感染症になると、妊娠したとき赤ちゃんにうつったりすることもあります。**

■知っておきたい性感染症の特徴的な症状

男性

女性

性器クラミジア感染症

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●おしっこをした時の軽い痛み ●尿道からうみが出たり、かゆくなる ●症状のある人は半分からい ●不妊の原因になることもある | <ul style="list-style-type: none"> ●症状はほとんどない
(初期のおりものや軽い下腹部の痛み程度) ●進行すると不正出血や性交した時は痛みがある ●不妊の原因になったり、妊娠中だと早期流産になることもある |
|--|--|

淋菌感染症

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●おしっこをした時の激しい痛み ●尿道からやや黄色い白みがかかったうみが出る ●精巣のあたりが腫れて熱が出る ●不妊の原因になることもある | <ul style="list-style-type: none"> ●症状はほとんどない
(初期のおりものが増える、熱が出る、下腹部の痛みが出る程度) ●不妊の原因になることもある |
|--|---|

尖圭コンジローマ

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●亀頭や陰のう、肛門のまわりに薄ピンク色のイボができる。 ●男性女性共に、イボの数が増え鶏のとさかのようなになる。 ●自覚症状はほとんどない（かゆみや軽い痛みを感じる程度） | <ul style="list-style-type: none"> ●外陰部、膣、肛門のまわりに薄ピンク色のイボができる |
|--|--|

性器ヘルペス

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●性器にかゆみのある1ミリから2ミリほどの水疱ができる ●太ももやリンパ節に腫れや痛みがあり、尿道分泌物が出る | <ul style="list-style-type: none"> ●大陰唇や小陰唇から、膣前庭部、会陰部にかけて水疱や潰瘍ができる ●太もものリンパ節の腫れや痛みがあり、子宮頸管や膀胱まで感染が広がることもある |
|--|---|

近年、特に梅毒が増えています

梅毒では、陰部に潰瘍ができたり、リンパ節の腫れ、全身の発しん、さらに進行すると、脳や心臓にも症状が出ることがあります。梅毒にかかっている人が妊娠すると、流産・死産になったり、赤ちゃんにも感染し、様々な重い症状が出ることがあります。

近年、男女ともに増加が認められます。



予防が大切です！

性感染症を予防するためには

- ・最も効果的なのは、性的接触をしないこと。
- ・粘膜同士の直接の接触を避けること。
⇒性的接触の際にコンドームを使用することで感染のリスクを減らすことができます。
ピルでは性感染症は予防できません。
- ・カミソリや歯ブラシの共用を避けること。

感染したかも知れないと不安に感じる時にはすぐに検査を受けることが大切です。

性感染症に感染したと不安がある場合、恥ずかしがらずに医師の診察、治療を受けましょう。ほとんどの性感染症は検査で発見でき、感染しても早く発見して、適切に治療すれば治ります。男性は泌尿器科や皮膚科、女性は産婦人科等で相談できます。また、性器クラミジア感染症や淋菌感染症の検査を受けることができる保健所もあります。

性感染症は完全に治るまで治療しなければ何度でも再発します。

治ったようにみえても、慢性的な感染を防ぐために、必ず医師の指示した期間、薬を服用する必要があります。

性感染症に感染した場合、相手も感染している可能性があります。

検査、治療は相手と同時に受けることが重要です。

性感染症について
正しい知識をもつことが
とても大切です。



厚生労働省リーフレット「性感染症mini講座」より

性感染症 厚生労働省

検索

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/

性感染症 政府インターネットテレビ

検索

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg7565.html>